

2007年度 第2回特許セミナー

「知的財産戦略」

開催日：2007年12月5日(水) 14:00～17:10

会場：青山学院大学 相模原キャンパス F棟304教室

会場案内図は青山学院大学 web サイトをご覧ください。

お車でのご来場はお断りします。

主催：青山学院大学総合研究所自然科学研究部

共 賛：青山学院大学理工学部

参加希望者は下記までご連絡お願いいたします。当日参加も歓迎いたします。

お問い合わせ先：青山学院大学 相模原事務局 研究支援ユニット

TEL：042-759-6056 (ダイヤルイン)

E-mail：sawabe@ee.aoyama.ac.jp

<プログラム>

14:00～

開会挨拶

理工学部情報テクノロジー学科 准教授 山口 博明

14:05～

「知的財産制度入門」

特許庁総務部企画調査課活用企画班 活用企画係長 福田 洋子

最近、「知的財産」「知財」という言葉を良く耳にされると思いますが、政府では、「知的財産推進計画2007」を5月末に決定し、「大学等やTLOの知的財産関連活動を強化する」「模倣品・海賊版対策を強化する」「知的財産を活用して地域を振興する」「世界最先端のコンテンツ大国を実現する」「ライフスタイルをいかした日本ブランド戦略を進める」といった施策に取り組んでいます。このような最近の知的財産に関する動向を理解していただくため、主に特許庁に関係している知的財産である、特許・意匠・商標の制度、権利の取得・活用などについてお話する予定です。

15:05～

「事業経営と知的財産権」

加藤萬国特許事務所所長・弁理士 加藤 孝雄

新商品の原理発明がなされても、実用化には実に多くの関連技術が育ってくる必要があることが多く、原理発明から実用化までに 20 年から 30 年を要することは珍しくない。そのため実用化時点で、幹となるべき原理発明の特許権は消滅していて、一方実用化研究の過程で非常に多くの基本発明、改良発明がなされ、それらが知的財産権として登録され、新商品の市場での競争力を担保することとなる。実際問題としては、実用化までの長年月のどのタイミングでリソース投入し、基本特許あるいは有効な改良特許を押さえるかが重要であり、タイミング判断が経営戦略の要となる。最近の市場での具体例によって、どのようなリソース投入が行われたかを特許出願件数を追って分析し、その過程での経営判断を紹介する。又、既存市場に市場参入する際、知的財産の壁を乗り越えるための方策として、ライセンス導入と対抗特許の創成の 2 つの方法があるが、具体的例をもとにその戦略的取り組みを紹介する。以上により、企業の事業経営において知的財産権がいかに重要な位置にあるかを説明し、さらに国家レベルでも、重要なテーマであることを時間の許す範囲で若干紹介する。

16 : 05～

「特許と商標を利用して成功するために必要な視点」

岡部国際特許事務所 弁理士 松井 孝夫

毎日何らかの形で知的財産に関する情報を目にすることが一般的になり、起業、新規ビジネスへの参入、新製品の開発など、知的財産戦略が重要な位置を占めるとの認識も定着したといえる。本講演では、知的財産権のうち、特に特許と商標を中心として、ビジネスで成功するためには、どのような視点が必要であるのかを、成功例と失敗例から考える。さらに、わが国のみならず、世界の中でどのような視点で捉えなければいけないのかについて、特にアジアの現状が与える問題についても触れる。

17 : 05～

閉会挨拶

理工学部情報テクノロジー学科 准教授 山口 博明